

世界遺産における交通まちづくり

～平泉のおもてなし～*

Traffic planning for World Heritage City ; A Study of district in Hiraizumi*

西山 良孝** 小島 浩** 若井 亮太*** 牧村 和彦****

By Yoshitaka NISHIYAMA, Hiroshi KOJIMA, Ryohta WAKAI and Kazuhiko MAKIMURA

岩手県平泉は、平成 23 年 6 月に世界文化遺産への登録が決定しました。IBS は、平成 19 年から現在まで、平泉の観光交通マネジメントに関わってきましたが、本稿ではこれまでの取り組み状況、課題等についてとりまとめました。

1. 平泉の概要

平泉は岩手県南部、北上川沿いに位置する人口約 83 百人の観光と農業を主な産業とする小さな町です。平安末期、奥州藤原氏の治世時には近辺で産出される黄金を背景に栄華を極め、浄土文化が花開きました。しかし、源氏による藤原氏討伐以降衰退し、現在では中尊寺金色堂、毛越寺など、往時を偲ぶ寺院が一部残されるのみですが、それでも年間 2 百万人を越える観光客が訪れる東北有数の観光地です。

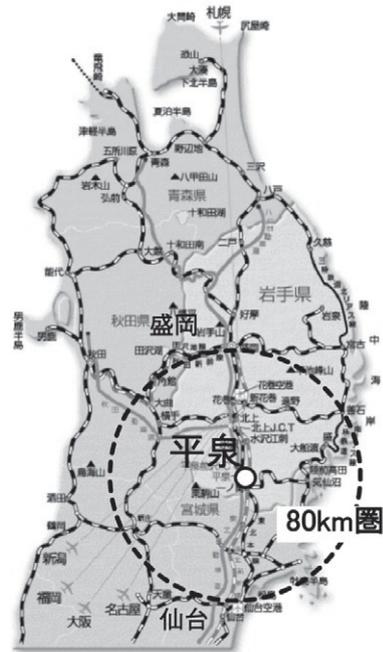


図-1 平泉の位置

中尊寺



金鶏山



毛越寺



無量光院跡



柳之御所跡



旧観自在王院庭園



世界遺産の構成資産
中尊寺
毛越寺
観自在王院跡
無量光院跡
金鶏山

藤原四代
藤原清衡(きよひら)
基衡(もとひら)
秀衡(ひでひら)
泰衡(やすひら)

西暦 1100 年頃
清衡 平泉に館を移す
西暦 1189 年
泰衡 源頼朝に討たれ
藤原氏滅亡

図-2 平泉の歴史文化遺産

東北研究室 主任研究員 室長 *社会基盤計画研究室 主任研究員 ****企画部次長 博士(工)

平泉町内には、東北自動車道、国道4号、そしてJR東北本線が、南北方向に縦貫しています。また、平成20年8月には、国道4号平泉バイパスが北上川に沿って供用しています。町内の移動手段として、平泉駅を起点として文化遺産を連絡する巡回バスるんるん、また平泉駅前にレンタサイクルがあります。



図-3 平泉の交通環境

づらく、レンタサイクルも駅前にしか貸出所がありません。観光案内所も駅前にしかなく、自動車利用者は地域の観光情報を入手しにくい状況です。

自動車利用による観光客にとって、平泉は動きづらい、わかりにくい状況でした。

(2) 観光交通マネジメントの方針

現況の課題を踏まえ、具体の施策検討にあたる、“広域からのアクセス性に優れた交通の実現”、“観光と環境が調和した交通の実現”、“多様なモードで周遊しやすい交通の実現”を3本柱とする観光交通マネジメントの方針を設定しました。

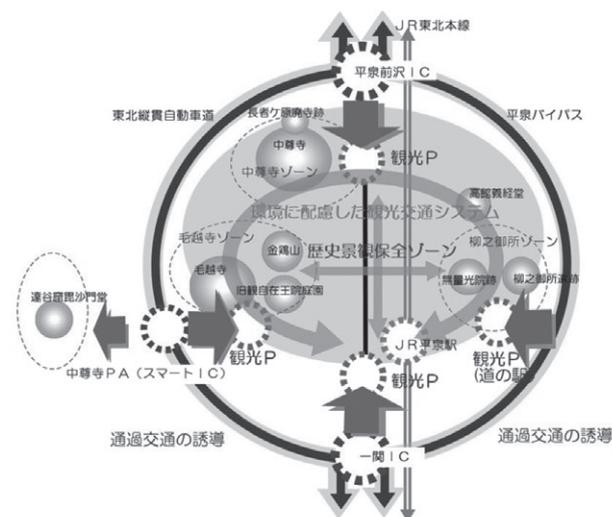


図-4 観光交通マネジメントの方針

2. 平泉の社会実験

IBSが平泉に関わるきっかけは、国土交通省岩手河川国道事務所の調査です。本調査では平成19年度の現況問題把握と観光交通マネジメントの方針検討から、平成20年8月に供用した平泉バイパスを活用した社会実験と本格実施に向けた施策提案まで、3箇年をかけて取り組みました。

(1) 平泉の観光交通の課題（平成19年時点）

平泉の観光交通の特徴は、中尊寺ワンストップ型です。観光ピーク時には中尊寺へのアクセス道路である国道4号が激しい渋滞となりました。この原因は国道4号に観光交通と通過交通が混在すること、大半の観光客が中尊寺の足下にある中尊寺第1駐車場を目指すためでした。また、地域内を周遊する巡回バスは駅を起点とするため自動車利用者には使い

(3) 社会実験のきっかけ

平成20年8月に市街地外周部に供用した平泉バイパスは国道4号の渋滞緩和の決め手として期待され、供用後の調査でも通過交通の大半がバイパス利用に転換したことが確認されました。当時、世界遺産登録の動きや高速道路の料金割引施策実施から観光需要の増加が見込まれており、この平泉バイパスを活用して、観光交通マネジメント方針を具体的に施策として展開することが必要となりました。

(4) 社会実験の実施（平成21年度）

具体的実施施策の設定に向けては、施策の効果を検証して選定することが必要との判断から、2段階で社会実験を実施しました。現況課題へ対応する施策により第1段階施策を実施し、その結果を検証し

て第2段階を実施し、全体を評価して本格実施する施策を提案する手順です。

＜第1段階実験の内容＞

第1段階実験では、国道4号に集中する観光自動車分散のためバイパス沿道の未利用地に臨時駐車場を確保し、IC出口やバイパス分岐部等で既存駐車場と臨時駐車場の満空空車情報をリアルタイムで提供しました。設置した臨時駐車場では、中尊寺間のシャトルバスとレンタサイクルを実施し、町内の周遊促進を図りました。シャトルバスとしたのは、既存の循環バスでは、観光ニーズの高い中尊寺へ遠回りになり時間がかかることから、速達性を確保するためでした。更に、駐車場では、既存のバスも含めた交通情報と、歴史文化施設の観光情報を一体としたマップを配布しました。

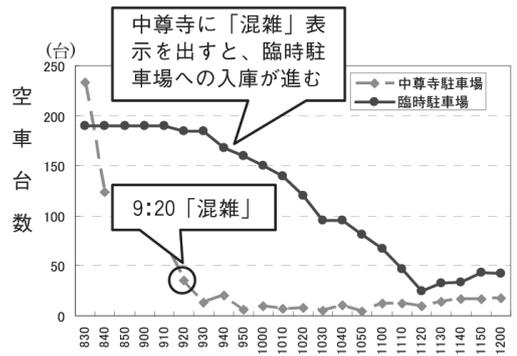


図-5 満空表示と駐車場入庫の状況

	8時台	9時台	10時台	11時台	12時台	13時台	14時台	15時台
3日	中尊寺P							
	毛越寺P							
	柳之御所P							
4日	中尊寺P							
	毛越寺P							
	柳之御所P							
5日	中尊寺P							
	毛越寺P							
	柳之御所P							

Legend: 空車 (White), 混雑 (Grey), 満車 (Black)

図-6 満空空車表示内容



写真-1 満空情報提供看板と臨時駐車場



写真-2 シャトルバスとレンタサイクル

＜第1段階実験の効果＞

実験期間中、バイパス分岐手前の交通量は南北とも昨年同時期より増加したにも関わらず、町中の国道4号の交通量は減少し、渋滞も大きく緩和されました。実験では、提供する満空情報に連動して臨時駐車場への入庫が進み、その効果が確認出来ました。シャトルバスやレンタサイクルの利用も多く、観光客にも好評でした。

＜第1段階実験の課題＞

課題はシャトルバス利用者の1/3が中尊寺のみの拝観にとどまったことです。中尊寺で既存の巡回バスに乗りかえることを期待して実施しましたが、周遊までには至りませんでした。また、臨時駐車場では、平泉の歴史文化に対する質問が実験スタッフに多く寄せられましたが、答えきれなかった反省もありました。

＜第2段階実験の内容＞

施策内容の変更は、臨時駐車場からのシャトルバスを巡回タイプに変更したこと、歴史文化への質問、案内に備え町職員の臨時駐車場常駐体制などです。また、次年度以降の町が主体となった施策実施のために、町職員による施策実施、運用に実験体制を変更しました。

＜第2段階実験の効果＞

巡回バスへの変更により、バス利用者の訪問施設数は増加し、周遊促進が確認できました。

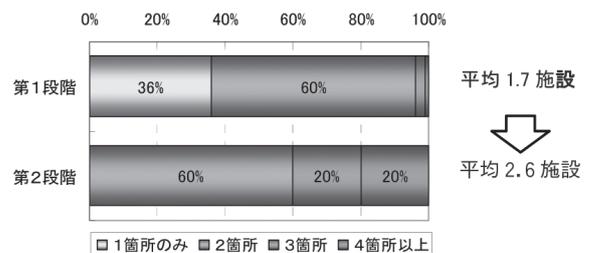


図-7 バス利用者の平均訪問施設数

町職員による施策運用も大過なく実施でき、自らの実施に対し手応えをつかんだようでした。

＜実験のまとめ＞

平泉バイパス整備効果は大きく、通過交通はバイパスへ転換し、町内の自動車誘導はスムーズに実施できました。特に、リアルタイムの駐車場満空情報提供は、駐車場誘導に大きな効果を発揮しました。臨時駐車場は、観光施設から離れた駐車場でしたが、周遊手段として利用しやすいバス、レンタサイクルを提供することで、観光客の満足度は高まり、周遊促進に効果がありました。さらに、交通情報と観光情報を一体化したマップには、観光客の皆様にご好評でした。最後に、これら施策は、平泉町が主体となって運用が可能と検証できました。

(5) 実験後の施策提案

実験の効果把握結果や整理した知見等から、駐車場誘導、周遊環境向上、観光拠点形成の視点から施策の提案を行いました。施策レベルも次年度からの実施を目標とする短期施策と、新たな検討や他機関調整が必要となる施策を盛り込んだ中・長期施策の2段階としました。

表-1 観光交通マネジメント施策（短期）

	短期施策(案)
駐車場誘導	○駐車場満空情報の提供 ○駐車場、観光施設等の案内看板設置 ○中尊寺交差点での誘導員による中尊寺第2駐車場への誘導
周遊環境向上	○現行の巡回バスを前提とした運行時間帯の拡大、運行間隔の短縮 ○柳之御所, 中尊寺でのレンタサイクル実施
観光拠点形成	○観光拠点:柳之御所形成に向けた運用(駐車場、バス、レンタサイクル、平泉の文化・周辺観光情報の提供、産直販売等イベントの実施) ○サブ拠点として中尊寺で交通情報・観光情報の提供実施

表-2 観光交通マネジメント施策（中・長期）

	中・長期施策(案)
駐車場誘導	○駐車場満空情報システム自動化 ○地区外周部での駐車場開設 ○観光バス待機場の設置
周遊環境向上	○両回り循環バスの運行 ○町営駐車場でレンタサイクル実施 ○海外観光者にもわかりやすい情報提供(案内標識、ITによる情報提供) ○中尊寺通りの歩車共存化、国道4号の道空間の再構成 ○スマートインターチェンジ
観光拠点形成	○道の駅:「柳之御所」の整備(観光・交通情報提供、地域交流、交通結節点) ○サブ拠点:毛越寺の整備(観光・交通情報提供、レンタサイクル)

3. 平泉バイパスの整備経緯

交通マネジメント上、平泉バイパスは大きな役割

を發揮しました。この平泉バイパスの整備には、長い期間を要し、全国的にもあまり例のない背景がありますので、ここで紹介します。

＜当初は北上川治水上の堤防計画＞

平泉中心部の東を南北に流れる北上川は、その下流が狭窄部のため平泉・一関地区に大きな水害をもたらしてきました。特に昭和22年、23年の台風による大洪水では数百人の死者行方不明者が出ています。このため、「北上特定の地域総合開発計画」が昭和28年に閣議決定され、ダム群開発、河川改修等が行われることとなりました。現在平泉バイパスの位置する箇所は、一関遊水地の小堤です。

＜堤防とバイパスの併設＞

モータリゼーション進展に伴い、国道4号のバイパス計画が持ち上がり、さまざまなルート検討の結果、昭和56年に北上川の堤防に併設する形式で都市計画決定となりました。

＜柳之御所保存に伴うルート変更＞

平泉の発掘調査が進む中、藤原氏の政庁跡と目される柳之御所から大量の遺跡が発掘され、その重要性が認識されたことで堤防・バイパス整備に対する反対の声も大きくなってきました。歴史遺産の保全と地域住民の安全確保を両立するために、国土交通省は英断を下し、平泉堤防を当初計画より東に堤防法線を変更(河道の変更)し、バイパスルートも変更した都市計画変更を平成7年に行いました。

＜景観等に配慮した整備＞

具体的設計に入った段階で、平泉の世界遺産への動きがとりざたされてきました。堤防、バイパスの計画位置は、平泉の歴史遺産の中でも重要な義経堂、柳之御所に隣接することから、堤防・バイパスの景観的な圧迫感の軽減、バイパス通過車両の騒音対策等に配慮した構造が検討され、平成20年8月に供用しています。

平泉バイパスの整備には、先人による平泉の歴史遺産の重要性、保存の必要性が込められています。

4. 最近の平泉の状況

(1) 実験後の状況変化

実験終了後もIBSでは平泉町からの依頼により、引き続き観光交通マネジメント施策の提案、観光期の施策運用補助等を行っています。

実験の経験、世界遺産登録により、町内にはさま

ざまな動きがでてきました。平泉町では、駐車場案内の効果の評価し、駐車場案内システムの整備に取り組むことになりました。この駐車場案内システムは、平成23年4月から運用となっています。



写真-3 本格運用となった駐車場案内

また、平泉町は駐車場容量確保のため、イベント時には実験時に使用した柳之御所臨時駐車場を利用するとともに、耕作放棄地や遊休施設の敷地などを借り上げ、駐車場として活用を始めました。同時に駐車場満空情報提供や駐車場案内の看板設置なども行っています。

町内周遊手段では、バス事業者が既存の巡回バスを増便するとともに、臨時駐車場開設時にはシャトルバスも運用しています。レンタサイクルは既存事業者が増車し、新たな民間事業者も参入しました。この民間事業者はイベント時には、臨時駐車場でもレンタサイクルを行っています。町では、増加するレンタサイクル対策として、中尊寺前に遊休地を活用して駐輪場を設置しました。この駐輪場には、誘導員が常駐し、観光パンフレットを常備して観光案内所の機能も兼ねています。

岩手県では、平泉駅から中尊寺へ向かう中尊寺通りについて歩行環境の向上、歴史を感じる町並みデザインへの改修に着手しています。

さらに、世界遺産登録により増加が見込まれる外国人観光客への対応として、多言語による案内版、パンフレット、ホームページも進んでいます。

このように、平泉では官民あげて、観光客おもてなしの施策に取り組んでいます。

(2) 世界遺産登録による観光客の増加

平成23年3月11日の東日本大震災は、平泉の観

光にも大きな影響を及ぼしました。平泉の観光のピークは、5月のゴールデンウィークに行われる“春の藤原まつり”ですが、平成23年は中止せざるを得ませんでした。

このような中、6月に世界文化遺産登録が決定し、平泉は希望の光と捉えられました。岩手県や宮城県の復興計画では、平泉を観光需要復活の起爆剤としています。実際、世界遺産登録までの観光需要は前年を下回りましたが、登録決定以降、観光需要は大きく増加しています。

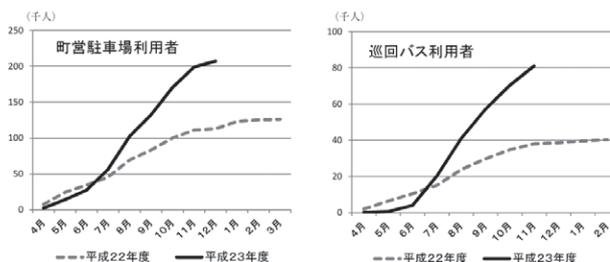


図-8 駐車場利用者・巡回バス利用者 (累積)

(3) 今年の“春の藤原まつり”での対策

今年(平成24年)の“春の藤原まつり”は、世界遺産登録後初の開催であることや、同時期に行われている“東北観光博”、“いわてディスプレイーションキャンペーン”もあり、多くの観光客の来訪が想定されていました。このため、これまでの対策に加え、事前に平泉町、警備会社と誘導方針、連絡体制を確認し、臨みました。また、ネクスコエンジニアリング東北に協力をいただき、東北自動車道長者原SAに平泉の情報提供ブースを設置し、IC出口や町営駐車場のリアルタイム画像提供、現地スタッフとの携帯電話による臨時駐車場の混雑情報提供、観光パンフレット配布等を行いました。

(4) 今年の“春の藤原まつり”の状況

今年の“春の藤原まつり”は、あいにくの雨模様でしたが、多くの観光客に来訪していただきました。中尊寺や毛越寺では拝観券購入に長蛇の列ができる状況で、町の観光担当課の方も、初めての経験と言うほどでした。

今年の観光者の特徴として、“平泉にはじめてくる方”の多いことが挙げられます。平成20年に実施した駐車場利用者アンケートでは、50%弱だったのが、今年は60%を超えています。初めて来る方

はカーナビゲーションで中尊寺を目的地に来るためか、中尊寺前の国道4号は、実験以来の混雑状況となりました。実験時から国道4号中尊寺前の交通処理には重点をおいてきましたが、中尊寺第一駐車場への入庫待ち車両が国道4号にまで並ぶ状況を見て、更なる対策の必要性を痛感しました。

5. 今後の課題

まだまだ、平泉の観光交通マネジメントには課題も残ります。第一は、中尊寺前の交通処理です。町内に入ってからの駐車場案内、警備員による誘導徹底とともに、町内に入る前に行う案内情報提供を強化する必要があると感じます。今年試行的に行った高速道路SAでの施策をさらに拡大展開することも考えられます。また、世界遺産登録により観光バスの増加が想定されるため、観光バスの通行経路と観光客待ち時の待機場所を検討することも必要です。

さらに、中尊寺の月見坂下での安全対策が重要と考えます。月見坂下は、中尊寺へ参詣する歩行者、中尊寺第一駐車場の入出庫車、中尊寺へ上る観光バス通行路が交錯し、危険な状態にあります。

6. おわりに

平泉の観光交通マネジメントにはまだ課題も残りますが、平泉町、観光業関係者、交通事業者など、皆が熱意をもってよりよい交通環境に向けて取り組みを続けており、IBSもお役にたちたいと考えています。

最後に、このような場を提供いただいた平泉町、国土交通省岩手河川国道事務所、ネクスコエンジニアリング東北はじめとする皆様に感謝いたします。なお、IBSが国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所から受託した業務は、平成22年度、東北地方整備局長より、優良業務表彰を受けています。